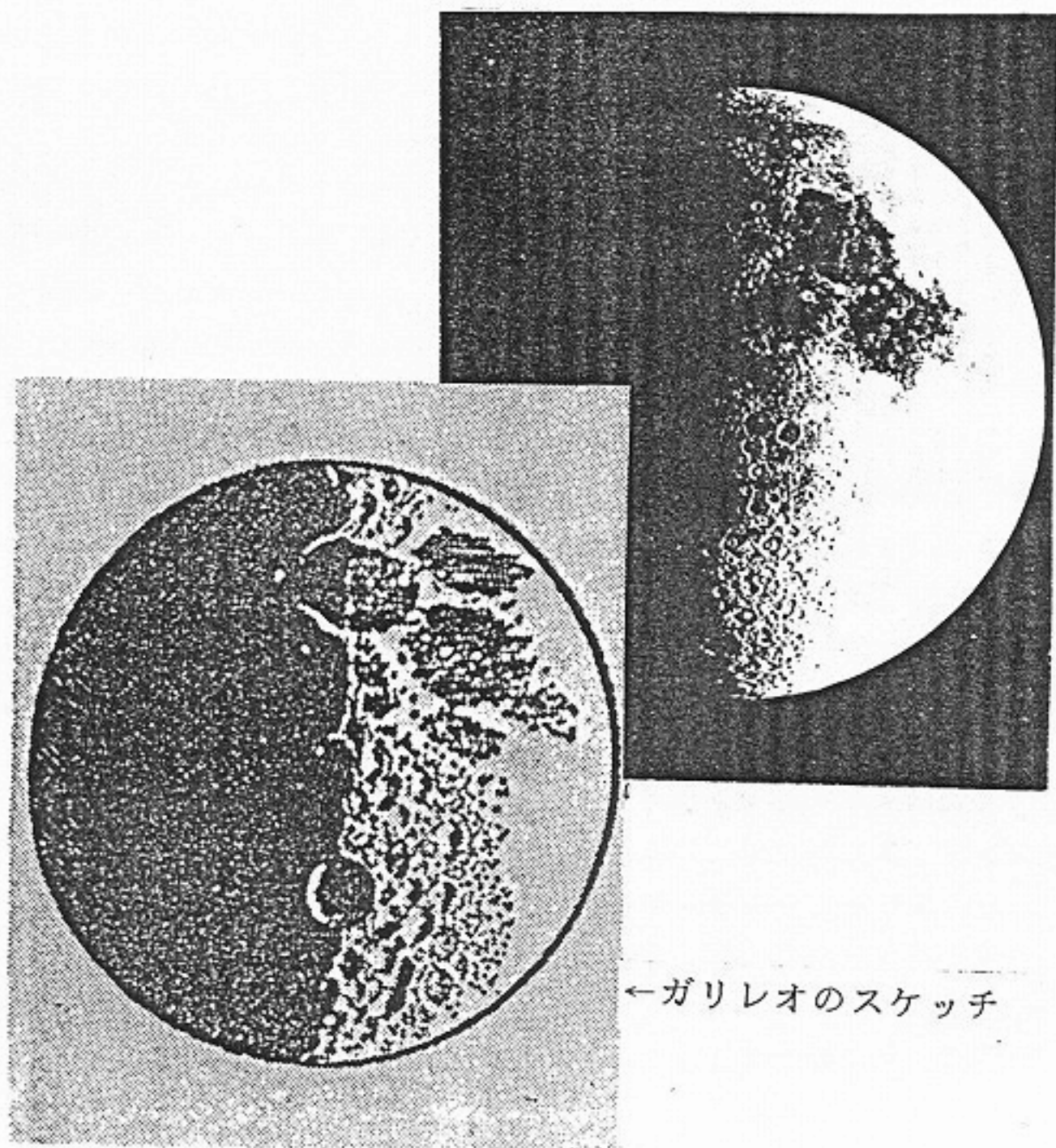


佐賀天文

1986

NO. 7



←ガリレオのスケッチ

佐賀天文協会

★ 目 次 ★

1986年3月19日大火球報告	-----	古賀 利 幸
2度目のハレー彗星	-----	聞き手・山田幸子
ハレー彗星観望会を顧みる	-----	松 林 大 樹
編 修 後 記	-----	古 賀

が
と
元
福
そ
い
そ
そ
大
ま
発
が
も
で
い
こ
当
高
は
れ
う
何
空
っ
は
そ
に
下

1986年3月19日 大火球報告

古賀 利幸

今回の大火球は稀にみる大きさを持ち、広域に大きな音響が感じられたが、その時刻はあいにく佐賀県地方は積雲におおわれていたので写真はもとより目撃者も少ない状態で調査を行った。目撃者捜しは一部全国紙と地元の新聞に協力をお願いした。

報告は15通ほど寄せられた。この結果から火球は福岡県側より現れ、福岡県よりの目撃者によると、この時点で二つに分裂したとのことである。その内の一方が佐賀県をほぼ東西に横断していった途中、八幡岳付近において三つ位に分裂するのが武雄及び佐賀市金立の方向から目撃されている。そして最後に県西部の西有田地区、原明付近においてまた2個に分裂してその姿を消している。この一連の目撃による証言から、火球は少なくとも大きな分裂を3回繰返したようだ。

また佐賀県の東部においては、大きな家屋に振動をおこすような音響を発している。音響は全県的に感じられているが、県東部では室内にいた者が強く感じられた傾向がある。また、通常の爆発音とは異ったという証言もあるところから、この火球（隕石）の大気圏突入時に発せられた衝撃波ではないかと考えられる。この時、気圧の微小変化が気象台で記録されている。

この大火球は佐賀市上空で目撃された時には雲の中から現れているが、当時の雲の高さは佐賀気象台によると1200m位とのことなので、この高度より最終的に目撃された西有田の楠木原付近まで到達したということは、かなり緩やかな入射角度をもって佐賀県に突入してきた事がうかがわれる。しかし、他県での目撃者の談では、かなり急角度で突入していたようなので、衝撃波音の発生した時点において入射角度を変化させるような何等かの力が作用したのではないかと考えている。また、当時佐賀県の上空は北西方面10mの風が吹いていたとのことなので、火球はこの風に向かって飛んだことになる。このことも火球の運動に重要な影響を与えたのではないだろうか。

そして八幡岳付近で3個（あるいはそれ以上であったと言う人もある）に分裂してそのうちの1個が更に飛翔して原明から楠木原近くにかけて落下したのであるが、現地は我々天文協会及び長崎天文連絡会などにより4

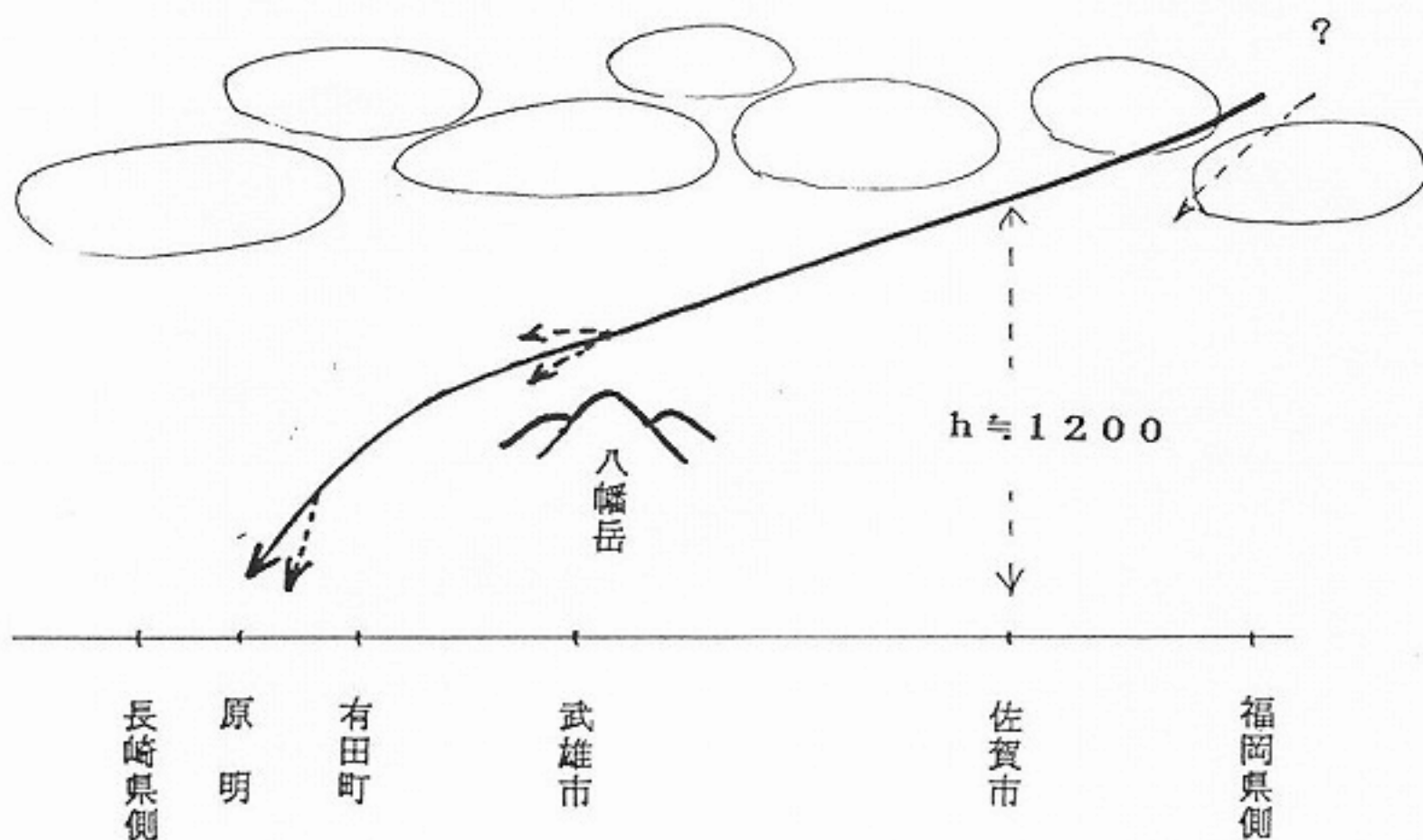
月20日に搜索が行われたが発見できなかった。その後、佐賀県の博物館主催で一緒に搜索したが今迄のところ見つかっていない。何分にも現地は杉林や雑草に覆われていて発見がなかなか困難をきわめている。

一方、多良町の栄町方面から多良岳山中に向って飛んで行く非常に明るい光を発した姿が目撃されており、前述の分裂地点のいずれかで分裂したものであろう。こちらの方は最終的に落下した地点は確認されていない。

以上のように、非常に大型の火球のようである。最後に今回の搜索に情報を提供してくださった方や、多忙ながら陨石搜索に協力された会員の方々に感謝して一応報告を終わりたいと思う。

★ この後、4ヶ月して四国天文協会より香川県綾歌郡国分寺町に隕石がかなりまとまって落下したとの連絡がありました。

1, 月 日	1986年 3月19日
1, 時 間	19時44分頃
1, 雲 々	積雲
1, 雲 高	1200~1300m
1, 気 圧	1/100
1, 地 震	なし
1, 形 状	超大型の火球
1, 色	青みがかった白色→オレンジ色
1, 明るさ	満月より相当明るい
1, その他	佐賀、小城、多久 等で特に大きな音響が聞かれた



二度目のハレーすい星

語り手 掛林しずか

聞き手 山田幸子

4月24日(木)に森林公園で、「ハレーすい星と皆既月食観望会」を開催しましたが、ハレーを見る最後のチャンスとばかり、1000人近くの参加がありました。幸い、穏やかな快晴でチビッコからかなり年配の方まで、地球から遠ざかっていくハレーを見ることができました。

その中で、わざわざ武雄から二度目のハレーすい星に会いに来た、掛林しずかさんという方がいらっしゃったので、後日、電話で前回のハレーの話をつかいました。

前回のハレーはおいくつぐらいの時でした？

「私は明治38年3月30日生れで満81歳になりますから、見たのは5歳のころです。その頃は天草の本渡市のまん中（といってもずい分田舎）に住んでいました。そのほうき星を見たら病気になるとか、いろんな噂があったようで、親からも見たらいかんと言われたんですが、隠れて見ました。」

どんなぐあいに見えました？

「頭の真上に絵のように大きな尾をひいていたのを、今でもはっきり覚えています。気味が悪かったけど、毎晩のように見ていました。だんだんと、そのほうき星は移動していったように思います。何日かたってまた見ると、前より少し小さく薄く、尾も短くなっていたみたいです。なにしろまだ小さかったので、季節やら時刻やらは覚えていないんですが、寒くも暑くもなかったような気がします。ただその大きなほうき星の姿だけは、はっきり覚えています。」

そのことから星に興味を持たれたのですか？

「いいえ、そういう訳ではありません。その時はそれっきりでした。ところが、女学校を出た頃から星に興味を持ち、同じ星が毎晩4分

ずっ早く姿を現わすのを、自分の目で確認したりしていました。野尻抱影先生の本もずい分読みました。戦災にあった時も、その本だけは、しっかり持って逃しました。もう、くされたような古い本ですが、私の大事な宝物です。武雄に越して来てから天体望遠鏡も買ったけど、空が明るくて、広場に持っていてもよく見えないので、孫にあげました。」

今回のハレーすい星を見たのは？

「実は、3月にも夜中に起きて2～3日探したのですが、とうとうわからず、結局、風邪をひいてしまいました。お医者様にも風邪をひいた理由は、はずかしくて黙っていました。でも、どうしても今回のハレーすい星を見たくて武雄から行きました。ほんと言うと小さくしか見えなくて、少しがっかりです。前の印象があまりにも強かったものですから。だけど、二度も見ることができてよかったです。」

という、お話でした。とてもお元気な掛林さん、今度は、大きな天文台で星を見てみたいそうです。

ハレーすい星観望会を顧みる

松林大樹

昨年から今年にかけて、76年ぶりにハレーすい星が太陽に近づき、日本をはじめ全世界を騒がせた。ただ今回は見える条件が最悪ということであったが、それでも4月10日の地球への二回目の最接近前には、日本からも肉眼で、尾を引いたその姿を見ることができた。

76年に一度しか見ることのできないハレーすい星を一人でも多くの人に見てもらおうと、佐賀天文協会でも観望会をやろうということになり、3回開催した。

まず、一回目は、ハレーすい星の初めの地球接近(11月27日)後の12月14日(土)に県立森林公園で開催した。当日はあいにく、冬特有のしぐれ模様の天気で開始予定の19時前後には、雨が降り、ハレーすい星を見ることができると危ぶまれたが、みんなの熱意が通じたのか、すぐに雨もあがり、とても寒かったが、澄んだ星空に望遠鏡や双眼鏡で少し尾を引いているハレーすい星を見ることができた。また会場が佐賀市街のすぐ近くにあるということもあり、悪天候にもかかわらず、一度はハレーすい星を自分の目でみようという人や子供にも一度は見せておこうという家族づれなどが、予想をはるかに上回り、とても対応できないくらい大勢の方が集まってこられた。この観望会を開催してよかったと思うとともに、改めてハレーすい星の人気のすごさに驚かされた。なお観望会終了を待っていたかのように、また天気がくずれだし、ついに雪が降ってきた。二回目は、ハレーすい星が近日点を通過後、日本から最も良く見える頃の3月16日と17日におこなった。この時は、ハレーすい星が地平線近くに見えるということで、佐賀市街から少し

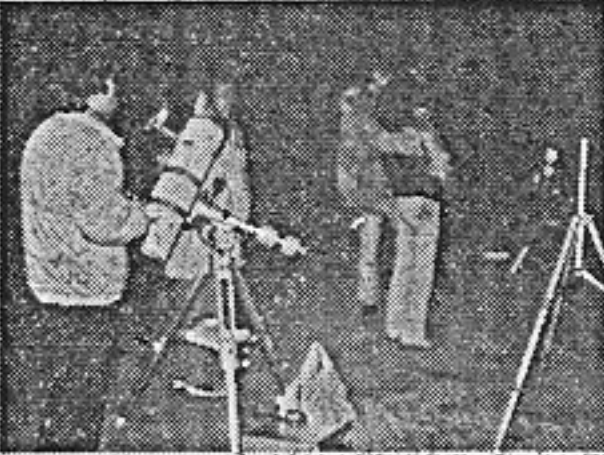
離れた、日の隈山近くの、小高いところにある西九州大学の学内を借りて開催した。またハレーすい星を見ることができた。また私を始め、数人の方が肉眼でも尾をひいたすい星を確認することができた。

本来は以上の二回を開催するという事で予定していたが、大変好評なので、もう一度やろうということになり、地球最接近後の4月24日(木)の月食の日に再び県立森林公園で開催した、この時も、月食、それに皆既中の月とハレーすい星を見ようという人が1000人近く集まってこられるという大盛況であった。この時のハレーすい星は、もうだいぶ暗く鳴っていたが、それでも望遠鏡や双眼鏡では、わずかながらをを確認することができた。以上3回ハレーすい星観望会を開催したが、我々天文協会としては、予想をはるかに上回る大勢の方の参加により大成功に終わったことは大変喜ばしい。また76年前のあの大きなハレーすい星を見て、これで2回目のハレーすい星を見たというご老人や、76年後のハレーすい星を見るであろう子供達など多くの方がこのハレーすい星を見て、とてもよかったと満足していかれたことと思う、ただ中には天文雑誌の写真などで見たハレーすい星より、はるかに貧弱で、がっかりされた方もおられたようだ。ハレーすい星も今はもう地球から、だんだん遠ざかっており、大望遠鏡でなければみることができなくなってしまい、ハレーすい星のことを話題にする人は、ほとんどいなくなってしまったことは、とても残念出ならない。ハレーすい星を見て星空・宇宙のすばらしさ美しさに感激した人達が、ハレーすい星だけでおわずに、今後も星に興味を持ち、星についてかたりあう仲間がふえれば私達にとってどんなにすばらしいことかと思えます。その為には、我々天文協会も機会ある毎に、こういった観望会などを開催していきたいとおもいます。さらばハレーすい星

★前述の他にも佐賀市の主催によるブラックアウトにより、我々の会の協力により観望会も計画したが悪天候のため中止されたいきさつもあった。

★今
以来
私の
し訳
★話
TV
つい
に火
ルが
でそ
うい
とい
てみ

ハレーすい星が見えた！
県立森林公園 観測会に100人集う



師走の星空にハレーすい星のロマンを求める参加者たち＝県立森林公園

大接近するハレーすい星を一目見ようと、天文ファンや家族連れなど約百人が師走の星空にロマンを求めた。ハレーすい星は今年12月の光の影も少なく、観測しやすい時期。日本でも最も見えやすくなるのは今月三十日から一月十日までといわれる。

同夜は昼間の雨も上がり、絶好の観測日和。冷え込みは一段と厳しくなったが、それでも望遠鏡を構えた。にわか天文家の家族連れや天文ファンが続々と詰めかけた。

同協会の会員がサーチライトで南西方向のハレーすい星の位置を示すと、参加者たちはそれぞれ望遠鏡でハレーすい星を確認、歓声を上げていた。

佐賀市で歳末助け合い募金呼び掛け
佐賀レオクラブ
ライオンズクラブの下部組織で、この創立十五周年を迎えた佐賀レオクラブ（野中英樹会長、十九人の子供たちが十五

い（佐賀天文協会主催が十四）あつた。七十六年ぶりに地球に

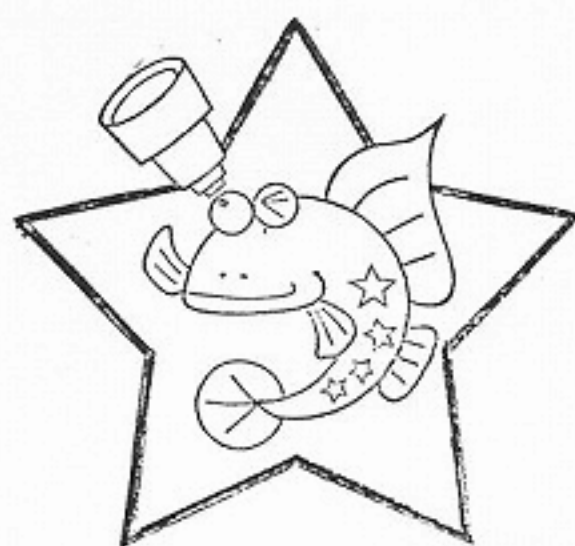
☆地元新聞に掲載された第1回目のハレー彗星観望会の様子。

編 集 後 記

★今回は会誌を出すのが大変遅れてしまった、というのも今春以来ハレーすい星・大火球・その他いろいろとあってとうとう私のところにはちが回ってきて今日になってしまったわけで申し訳ない。

★話しは変わるが、すでに見られた人もあると思うがNHK・TVのクローズアップという番組を見ていたら「月の誕生」についての新しい学説が紹介されていた、それによると月は地球に火星ほどの天体が地球とぶつかって、その為に地球のマントルがそのインパクトで吹っ飛んだ部分が固まって、出来たそうである。そのことは月の岩石や、その構造からわかるそうである。こういう説をきくと、その昔、月は太平洋から抜け出して出来た、という説があったのを思い出して、なにかこの問題を少しふれてみたくなったのでかいてみた。

古賀



佐賀天文協会